

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 復興支援－01

学校名・団体名	小学校金融教育研究会
HPアドレス	なし
コース	教育研究
活動・研究 テーマ	見つめ直すものの価値 ～映画を通して見えてくるもの～
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>①授業実践の教材化</p> <p>写真資料の充実を図ると共に、<u>現地の様子を映像（動画）として収めたドキュメンタリー映画</u>を作成する。現地の様子をわかりやすく伝えるため、昨年度まで視察した地域へと改めて向かい、復興の様子を動画に収める。</p> <p>②「東北物産展・パネル展・映画上映会」の開催</p> <p>旭川市での開催を例年行ってきたが、今年度は、勤務地であるオホーツク管内での開催を計画したい。また、パネル展については、①の教材化同様に配布できる形にする。</p>	

・主な活動内容

①上映会のための現地視察 (現地視察参加者：川崎理恵、川崎静奈)

< 8月31日 視察のための情報交流、旅程最終確認のための打ち合わせ会議 >

< 10月9日~10月12日 現地視察・撮影 >

< 1月11日 撮影した映像を部内で確認。上映会に向けての最終打ち合わせ会議 >

2年間継続して訪問している奥松島、蒲生地区、荒浜地区、閑上地区に今年度も訪れた。今年度は、昨年度からの変容を写真に収めるだけでなく、映像としても動画として撮影することに重きを置いた。音声は、風の音等で聞き取りづらい面が多々あったため、字幕を入れ、説明を付けることとした。



山の上に新しくできた野蒜駅



新路線として海岸線にできた線路



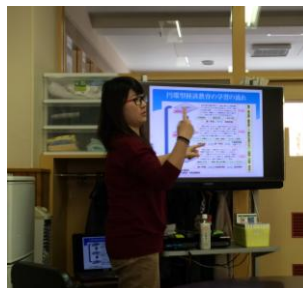
整地された閑上中学校横

②上映会の開催

< 1月14日 視察内容の上映、教材の配布会 >

北見市立北小学校において、上映会を行った。市内に案内をメール配信し、広く参加を募集した。また、撮影した映像・写真を教材としてDVDに収録し、それらを配布することを行った。旭川で開催したときと同様に、参加者からは未だ進まない復興の様子に驚きの声が寄せられ、我々が3年目にしてできあがった駅や生地の様子などを知らせても、「これだけとは」といった意見も上がっていた。

また、昨年度の授業実践の様子もあわせて発表し、教材としての利用価値についても交流することができた。1年目の外国語活動との関連については、AEEN代表の佐藤直子氏からもその様子を説明していただき、学習への活用について意見交流することができた。



上映会の様子

・成果と課題

昨年度も授業実践を参観していただいた参加者からは、「やはり動画として映像化された方が、伝わりやすい。動画として様子を感じ、写真で細部まで見つめることが被災地の現状をより知ることができる」という意見をいただいた。今年度、写真資料にとどまらず、映像として収められたことは今後の活用にも大きく繋がれると考える。復興に携わるどころか、震災について知らない年代、現状の情報が入ってこない地域にいる子どもたちに向けて、深く考えさせる機会を作るための教材として完成させることができた。

反面、現地に実際に行った者が語る内容を、現地に行っていない者が語る場合に、どうしても情報量の減少は否めない点なども課題としてあげられた。被災地でも語り部の存在が求められるのと同じく、伝える立場にある私たちも、「経験していない」「実際に行っていない」といったジレンマにはどうあってもぶつかることが今回痛感させられた。しかし、「わずかな情報だけでも共有することの重要性」や、「何も情報がないよりも、より実感のある情報」として、動画や写真が子どもたちにとって貴重な経験になると、上映会の中ではまとめられた。

よって、今回の映像や3年間の写真資料、授業案や授業の成果と課題を配布できたことは大きな成果であり、参加者からは自校に戻った際には、校内で交流したいとの感想もいただいている。今年度の目標であった、勤務校のあるオホーツクの地でも、わずかながら被災地の現状を伝え、「ものの大切さを知る」という金融教育の土台となる実践を交流できたことは、今年度の一番の成果と言って良いと考える。

今後は、この3年間で作成してきた教材を、引き続き広く発信し、より多くの子どもたちがものの価値について考え、被災地の現状を知り、復興を手助けするための一歩を踏み出してくれることを願い、教材が活用されることを望む。

貴団体には、3年に渡り小さな団体である本研究会に光を当てていただき、多大なるお力添えをいただいたことを、心より感謝いたします。貴団体のご尽力により、金融教育についてふれ、北海道の地にありながら被災地とのつながりを感じ、多くの子どもたちが思いやりや深く考え、情報を受け止める力を養うことができました。この研究は、一つの区切りとしてまとめをむかえることができましたが、今後とも本研究会にご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。